石狩教育研修センター　令和３・４年度　調査研究事業

学習指導の改善に関する研究

ICT活用実践授業に関わる研究委員会

令和３年度に全国の小中学校に「一人一台端末」が導入されました。これは「令和の日本型学校教育」に示されている「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実践する上で、欠かせないツールとなります。石狩管内では、環境整備が整いつつある一方で、具体的な活用事例が少ないことが課題となっています。

本調査研究事業では、北海道教育委員会が発出した「北海道ＩＣＴ活用授業指針」をもとにしながら、一単位時間の授業の中で端末をいかに効果的に活用していくか、またそのことを通して児童生徒の学びをどう深めていくかについて、授業研究を行い、それらを実践事例としてまとめ、石狩管内各学校の実践の参考となる報告をしたいと考えています。本リーフレットでは中間報告として、これまで実施した実践例を紹介していますので、皆様の実践の参考にしていただけると幸いです。

本研究では、「一単位時間での端末活用」に焦点を絞ります。

道教委が令和２年８月に発出したＩＣＴ活用指針には、「ＩＣＴ活用授業の目指す姿」として、右の６つを掲げています。「個別最適な学び」「協働的な学び」を往還し、学びの質を高める端末活用の在り方が課題となっています。特に「主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善のサイクル」を達成するための効果的な手段として、一人一台端末の活用が図られる授業づくりを目指します。

ＩＣＴ活用授業の目指す姿

（北海道教育委員会「ＩＣＴ活用授業指針」より）

- 指針①適切な情報活用能力の育成
- 指針②身近な道具の一つとしてのＩＣＴ機器
- 指針③学びの質を高めるためのＩＣＴ活用
- 指針④個別最適化された教育の実践
- 指針⑤子どもの障がいの状態や特性に応じたＩＣＴ活用
- 指針⑥教員の業務負担軽減と子どもに向き合う時間の確保

ＩＣＴが得意な先生だけが端末を使っていくのではなく、深い学びを追究する中で、必要な場面でどの学級でも活用していく必要があります。

「とにかくＩＣＴを使えば、深化した学びになる」のではなく、端末のよさを生かして、活用する場面を精選し、単元全体の見通しをもって活用することが不可欠です。

「ＩＣＴを使うためにこんな授業にしよう」という発想から脱却し、「子どもの学びを保障し、学びの質を高めるために、端末が欠かせない」という考え方のもとで授業をつくっていくことが重要です。